

人を救い防災に挑む

消防士たちの戦い (1)

ピンと背筋を伸ばし不動の姿勢。「敬礼！」号令と共に拳手の礼。

午前8時半、時間きつちり鯖江消防署、朝の点検に土気がみなぎる。

消防士は紺色、オレンジは救助隊、救急救命士はグレー。3色の制服が凛々しい。

人員点呼に続いて車両点検。一斉にサイレンを鳴らし、赤いランプが点滅する。「異常なし！」訓練動作はきびきびと鋭い。



士気がみなぎる朝の点検 鯖江消防署

続いて館内での朝礼「誇りと勇気を持って信頼される消防職員を目指します」誓いの言葉が響きます。

緊急出動は一刻を争う。119番の受信から、消防車に乗り込むまで1分。現場到着は平均7分という素早さ。これが消防士の目標です。

消防も救急も早期対処がカギ。体を張って立ち向かう気力と体力、瞬間の判断力が重要です。そのために日頃の訓練を積む。能力を磨き資格を取る。職員の目は輝いています。

消防署の職員数は108人。救急救命士13人、応急手当指導員51人、救急隊員77人のほかにガス溶接技能、クレーン運転、船舶操縦士、潜水士、起震車操作員などバラエティーに富んでいます。

救急出動は年に2千回を超え、急病と交通事故が多い。事故車のドアを切断して閉じ込められた重傷者を救出する。岩壁から海に転落した車をクレーン車で吊り上げる。ロープを伝って助け出すなど、レンジャー活動も繰り広げます。

鯖江・丹生消防組合は鯖江、朝日、織田、越前、宮崎の5自治体で構成され、年間予算は約12億円で、傘下の2万7千世帯の住民を守ります。